

対人援助学会第8回年次大会企画ワークショップ

発表者：村本邦子（立命館大学）・中村正（立命館大学）
杉浦裕子（青森県むつ児童相談所）

タイトル：支援者支援でコミュニティの力（レジリエンス）を引き出す～「東日本・家族
応援プロジェクト in むつ」の事例をもとに

内容：支援者支援は対人援助学のなかでも重要なテーマである。東日本大震災を受けて立ち上げ、十年にわたって毎年、東北4県を巡回する「東日本・家族応援プロジェクト」では、コミュニティの力（レジリエンス）を引き出す支援のひとつとして、支援者支援セミナーを取り入れてきた。実施状況は各地さまざまであるが、被災による直接的影響がもっとも小さかった青森県むつ市における支援者支援セミナーは、ひとつのモデルケースとして工夫を重ねてきた。本ワークショップでは、むつ市で行ってきたセミナーを事例として、コミュニティ支援のひとつとしての支援者支援のあり方について検討する。まず、村本よりプロジェクトの全体像とむつ市における支援者支援セミナーの経過、中村よりセミナーの内容について紹介し、現地協力者である杉浦より現地から見た支援者セミナーについて報告する。コミュニティの力（レジリエンス）を引き出すという観点から見た時、これはどのように地域に貢献したのか、残る後半期でその成果を根付かせるために必要な課題と工夫について、ワークショップ参加者とともに議論し、支援者支援の可能性について検討したい。